



スキンヘルスの実現のために、
まずは“漏らさない”!

漏れを経験して欲しくない!!
いつも悩む…この状況
漏れを予防して
ストーマ周囲の皮膚を守りたい!

言語化して 理解しよう

結局今回は、なぜ上手くいったの?

よ繋が
うがる
にるに
次
具体的
に
知
りたい
が
理
由
が
腹壁・ストーマの状況の
なんで? アセスメントと

第1回 うまく説明したい 装具選択の視点

ストーマ傍ヘルニア

(ストーマ脱出)

むずかしい どうして?
こんな状況のときは
どうすればいいの?

2025年 2月8日(土) 15:30-16:20

会場 | ビッグパレットふくしま 第2会場 多目的展示ホールB

座長 | 北里大学 健康科学部 看護学科 松原 康美 先生
教授

演者 | 東京慈恵会医科大学附属病院 皮膚・排泄ケア特定認定看護師 江川 安紀子 先生

本セミナーは整理券制です 550席(予定) ※整理券はセミナー開始とともに無効となります。

共催: 第42回 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会/株式会社ホリスター



ホリスターの 医療従事者用

LINE公式アカウントはじめました!

友だち登録は
こちらから!

看護師のみなさまに向けた最新の製品情報、
セミナー・イベント情報を配信します。



言語化して理解しよう

腹壁・ストーマの状況のアセスメントと装具選択の視点

第1回 ストーマ傍ヘルニア(ストーマ脱出)

セミナー概要

ストーマ傍ヘルニアはストーマ周囲皮膚炎を除くと最多のストーマ合併症であり、12ヶ月までに30%以上、2年までに40%、それ以降では50%を超えるという報告がある。経年的に増加する合併症でありイレオストミーよりコロストミーの発生率が高いため、一時的イレオストミーが増えている近年は減少することを期待してしまう。しかし実際はイレオストミーの方に発生しケアが難渋したり、高齢者やがん薬物療法などで体力、筋力が低下している方に発生したりと、現在もよく遭遇する合併症のひとつである。

ストーマ傍ヘルニアの膨隆以外の症状は疼痛とストーマ管理困難が上位の報告が多く、手術治療の適応にもストーマ管理困難が挙がる。これはストーマ傍ヘルニアの症状がストーマ周囲の部位により膨隆の形状や大きさ、硬さが異なり、それが体位や活動状況により動的に変化し、さらに経年的にも変化することが起因する。そのためストーマ局所ケアに直接影響を及ぼし、ケア内容が複雑かつ不安定なストーマ管理困難につながる。また膨隆による腹壁変化だけでなくストーマサイズも変化することが多く、ストーマ近接部の保護が課題になることに加え、ストーマサイズが大きくなると使用できる面板が限られる。そして複雑なストーマ局所状況に応じたケア手順の多さや金銭的な負担増大などがストーマ保有者の生活にも大きく関与する。

ストーマケアを確立するためにはストーマと周囲状況を観察しアセスメントすることに加え、その内容を表現すること、そしてストーマ装具を選択するにあたり装具の特徴を系統立てて具体的に知ることが求められる。ストーマ傍ヘルニアなど合併症がある状況ではアセスメントを表現することがさらに重要であり、そのプロセスにおいて思考発話を繰り返し他者と共有することでケアの評価や相互の学びとなる。意図的に意識的にストーマケアを行い具体的に評価することについて、ストーマ傍ヘルニアのケアを通して学ぶ機会とする。